

再興で伝えたいこと

東日本大震災からもつづく3年。原発事故の影響で、多くの方が故郷を離れた生活を強いられている中、幾多の苦難を乗り越え、再興に向けて頑張っている人たちがいます。今月号では、浪江町から本市に拠点を移し、再興への道を歩み出したお2人に焦点を当てて紹介します。

伝統の窯を守り続け、新天地で陶芸の歴史と技術を伝えたい



やまだしんいち 山田慎一さん

「大堀相馬焼」の窯元に生まれる。愛知県で2年間陶芸の経験を積んだ後、実家に戻り家業に就く。平成15年にいかりや商店13代目を継承。「走り駒」の絵にこだわりを持っている。「白河の人は、ほかの地から来た人にも分け隔てなく接してくれます。最近では工房の近くに住む方も訪れてくれます」。

白河工房

- 所 在 大信増見字下川原11-7
- 業 種 陶器製造販売（大堀相馬焼）
- 操業開始 平成25年11月30日

開所式では鈴木副市長（左）が開所を祝い白河だるまを贈呈。100人を超える人が訪れ、伝統ある窯の再興を祝った。



いかりや商店

江戸時代後期から約300年続く伝統ある窯元。「青ひび」「走り駒」「二重焼」という特徴がある大堀相馬焼の製造販売をしている。伝統的な技法を用いた従来の作品だけでなく、現代のニーズにあった作品まで多種多様な製品を取り扱うほか、学校やカルチャースクール等での陶芸教室も行っている。平成25年11月には白河工房が完成し制作を開始した。

も前向きに行こう、そして子どもたちに自分の仕事を見せたいという思いが強くなりました」。

工房を建てるには様々な苦労がありました。土地の選定もそのひとつ。候補地の中から、故郷に似た雰囲気がある場所を選びました。

「開所式では、改めて皆さんの支えを感謝しました。今後は白河市への貢献とともに、故郷の浪江町や大堀相馬焼をアピールしていきます」。

大堀相馬焼の窯元は、半数以上が休業しています。すべての窯元の再興が山田さんの願いです。仲間に白河工房を見てもらい、再興の参考にしてもらえたらと考えています。

「県南地域にも陶芸の伝統と歴史を伝えていきたいです」。目を輝かせながら話すその表情は、この地域に新たな伝統工芸品の誕生を感じさせました。

再興に込めた、仲間たちへのメッセージ

震災後は、自身の身の置き

方すら分からない状況で、今日、明日のことしか考えられない日々が続いたと話す草野さん。そのような中でも、避けた社員の方の身を案じながら、会社の幹部の方と連絡を取り合い、再興の道を探りました。仮工場（棚倉町）での生産再開を足掛かりに新工場の建設を決意します。そしてついに、本市に自社の工場が完成し、本格的な操業を開始しました。

「高速道路や新幹線など交通の便が良いこと、何より、取引先が近くにあったので、会社の拠点は白河に置きたいと考えていました。資金の問題や不慣れた場所での土地の選定など、いろいろと苦労しましたが、市役所をはじめ関係する皆さんに心温まる支援をいただき、とても良い場所に工場を建設することができました。親せきも知り合いもい

ない土地ですが、仕事を通して関係する皆さんと、交流を深めることができるのがうれしいです」。

再興はゼロからのスタートでした。本社工場時の社員の方は避難先がバラバラで、それぞれが新天地で生活を始めていたため、こちらの工場でも働いてもらうのは困難な状況。人員の確保を新規雇用に頼り、仕事の内容を一から教えることになりました。

「はじめのうちは大変でしたが、社員は一生懸命仕事を覚え、今ではとても心強く感じています。こうしてアイ・ディー・イーが操業していられるのは、本社工場時の元社員たちが長年汗水を流して、努力して会社を支えてくれたおかげです。この思いを忘れることなく大きな原動力にして、社員たちとともにこれからを歩んでいきます」。

新工場の建設には自分なりのメッセージがあると話す草野さん。

「苦勞しながらも前向きに

頑張っているよ」という同胞へのメッセージです。これが浪江の仲間たちに伝わり、少しでも元氣と勇氣を与えることができたらうれしく思います」。

ほほえみながら、穏やかな声で語る再興に込めたメッセージは、とても心に響くものでした。

- 所 在 白坂一里段 6-285（新白河ビジネスパーク）
- 業 種 ワイヤーハーネス製品の製造
- 操業開始 平成25年6月10日
- 社 員 数 25人

昭和60年に本社工場を浪江町に設立。原発事故の影響で、西郷村に仮本社を置き、棚倉町の工場を借りて生産を継続した。その後、再興の場として新白河ビジネスパークに新工場を建設することを決め、平成25年6月に完成し操業を開始した。



(株)アイ・ディー・イー 白河事業所

Industrial Dynamics Electronics Co., Ltd.



くさのやすはる 草野泰治さん

(株)アイ・ディー・イー代表取締役。大学を卒業後、両親が経営する浪江町の電線工場に就職し、工場経営に携わる。その後独立、同町に現在の会社を立ち上げた。「白河は小峰城や南湖公園があり、風情を感じます。落ち着いたのがあると住みやすいところです」。